

総務企画防災常任委員会視察報告書

杉田 光

○愛知県半田市

「マイレポはんだの概要と災害時における活用について」

【所見】

昨今の気象状況や自然災害への対応を議論する中で、より時代に即した先進事例を視察する必要があり、半田市への視察を行った。「マイレポはんだ」とは、スマートフォンの無料アプリを利用し、道路の陥没や施設の破損など、市民にとってより身近な問題を迅速に解決するための取り組みであります。更に半田市では、「マイレポはんだ」をベースにして、台風、大雨などの災害時にスマートフォンから冠水状況、がけ崩れ、通行不能箇所など市内の状況を、写真と動画で、多くの市民から提供していただく機能を追加し、災害対策本部が設置されるような災害や防災訓練などで、本機能を活用運用していく取り組みであります。本市でもよく耳にする課題であるが、道路の破損等の緊急を要する問題に対し、気付いた市民がどこに連絡をすればいいのかわからないという声を、身近な形で市民と行政を繋げる手段として大変有意義であると感じた。災害時においてはなおさらである。市職員だけでは収集しきれない初期段階での災害情報がダイレクトに行政に集められることは、人命を守ることに於いて大変重要である。是非本市でも導入の検討を進めるべきであると感じた。一方で、スマートフォンを利用している市民の方にはリアルタイムで情報が繋がるが、それ以外の方々への対応も同時に考えなくてはならない。行政の管理のもと発信される情報でありますから、デマ等の原因にならないように管理をしなくてはならない。また、災害現場等の最新情報を収集しようと正義感にかられた市民の方々が危険個所に近づき二次災害を引き起こさないように対策を講じなければならないなど課題も感じられた。やはり、従来の地域住民との互助の精神と共に、一つの道具として利用し防災、減災に活かしていくことが重要である。最新技術は日進月歩である、本市に即した利用方法を検討し、早急に議論を進め導入を検討すべきであると感じた視察であった。

○愛知県高浜市

「市役所本庁舎整備事業について」

【所 見】

全国的な少子高齢化社会において、各地方自治体における公共施設の在り方については、大きな課題である。本市も例外ではなく、斎場、クリーンセンター等の更新等の課題があり、財政的にもクリアしなければならないハードルが山積している状況である。市役所本庁舎も経年劣化が進んでいる中、先進事例である高浜市を視察する必要性を感じ視察を行った。高浜市は市役所の窓口、事務、会議及び市議会等の機能を20年間にわたり果たすことのできる施設を、定期借家権等により、事業者から賃借することで、市が支払うコストの平準化を図り、事業者は自らの提案に基づき該当施設を利用した地域活動拠点機能の形成を目指す取り組みを行っている。簡単に言えば、民間事業者と連携しリース方式で市役所庁舎を運営していく方法である。高浜市長の考え方が「市庁舎は事務所であり、華美な装飾や機能は必要ない」という考え方であり、市議会議場も多目的会議場として他の会議のために利用し、市民にも開放しているようである。時代の流れとして、そういった発想も必要な時代であると共感したところである。市民の中からは、市のシンボリックな施設である市庁舎が借り物ということに反発する意見もあったそうだが、結果的に賛同が頂けたようである。本市でも限られた財源の中での公共施設整備は高浜市を見習うところが多くあると感じた視察であった。